

白川口駅前広場案内サインの多言語表記について

2021.2.10 熊本駅周辺整備事務所

◆全国的な流れ

- ①平成26年（2014年）3月 多言語対応の基本的な考え方
(2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた多言語対応協議会)
- ②平成26年（2014年）3月 観光立実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン（観光庁）
- ③平成26年（2014年）11月 取組方針（同協議会）

⇒「サインの言語表記は、**日本語、英語の2言語を基本とし**、地域や施設の特性及び視認性などを考慮した上で、**必要に応じて中国語及び韓国語を含めた表記を行う。**」等、日本語、英語の2言語を基本とする方針。

<参考：ピクトグラムを理解度>

「ひと目でわかるシンボルサイン 標準案内記号ガイドブック」
著：交通エコロジー・モビリティ財団標準案内用図記号研究会 / 監修：国土交通省総合政策局交通消費者行政課

(抜粋)
2001年3月時点における標準案内記号の理解度と視認性は以下の通り。特に理解度については、この図記号の利用頻度が高まるにつれて、現在低いものでも次第に高まっていくことが予測される。

理解度85点未満のものは、「文字による補助表示が必要」と規定している。

	理解度 92.1 視認性 84.5		99.3 88.8		89.1 78.5		97.4 80.5		理解度 68.1 視認性 90.3
お手洗 Toilets		タクシー/タクシ Taxi / Taxi stop		鉄道/鉄道駅 Railways / Railway station		バス/バスのほ Bus / Bus stop		案内所 Question & answer	

⇒ピクトグラムだけで上記視認性があることに加え、共通言語である**英語を併記**することで、**大部分の外国人が理解可能**である。

<参考：2か国語を採用している事例>



東京駅八重洲口の案内サイン



新宿駅付近の案内サイン

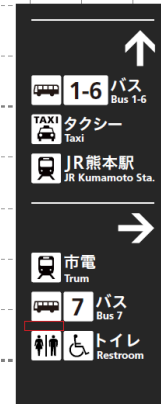
◆熊本市における検討経緯

- ①令和2年（2020年）2月 熊本市公共サインガイドライン（素案）について景観審議会専門委員会にて議論開始
- ②令和2年（2020年）4月 景観審議会専門委員会及び庁内関係課により多言語表記の方針決定
⇒原寸大のモックアップでサイズを確認するなどしながら議論し、各委員から見やすさを重視し、日本語・英語の2言語表記を基本とする方針とした。
- ③令和2年（2020年）11月 第29回景観審議会 公共サインガイドライン（素案）の報告
- ④令和3年（2021年）3月 公共サインガイドライン策定予定
⇒サインの言語表記は、**日本語、英語の2言語を基本とし**、地域や施設の特性及び視認性などを考慮した上で、**必要に応じて中国語及び韓国語を含めた表記を行う。**

◆熊本駅前広場における多言語表記の方針

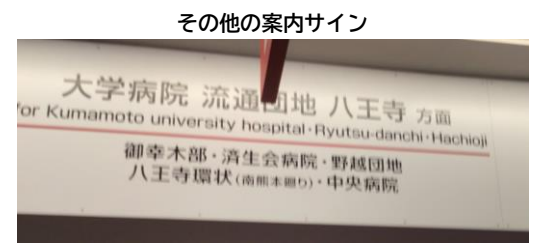
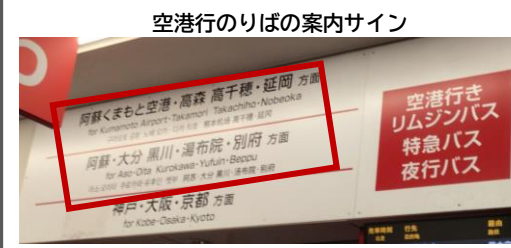
I ピクトグラムの併記を基本とする。

II 日本語・英語の2言語表記を基本とする。



III 交通結節点という特性を踏まえ、表示場所や表示内容に応じて中国語及び韓国語を含めた表記を行う。

<参考：桜町バスターミナルの事例>



⇒各交通事業者と協議の上、外国人観光客の利用が比較的多いと想定される**観光案内所の案内**、**市電のりばの案内**、**空港行き・都市間バスへの案内**等、必要箇所は5か国語表記を行う。

案内サイン

スマートバス停

電停記名サイン

交通事業者と協議の上、問い合わせ先など、5か国語表記を検討する

観光客の利用頻度が高い電停名などは、中国語・韓国語を併記する。